

第7学年〇組 美術科学習指導案

令和〇年〇月〇日（曜）〇校時

指導教諭 〇 〇 〇 〇 印

指導者 〇 〇 〇 〇 印

1 題 材 あなたの拍手

2 目 標

- (1)・形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、美しさを全体のイメージで捉えることを理解することができる。(知識及び技能)
 - ・水彩絵の具のいかし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すことができる。(知識及び技能)
- (2)・手や拍手のイメージから感じ取ったことから、形や色彩の特徴や美しさ、心情などを基に主題を生み出し、画面全体と手の関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。(思考力、判断力、表現力等)
 - ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫について考えるなどして、見方や感じ方を広げることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- (3)・美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく手の美しさや心情などを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組むことができる。(学びに向かう力、人間性等)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、美しさを全体のイメージでとらえることを理解している。	①手やそのイメージから感じ取った形やポーズ、色彩の特徴や美しさや、込められた心情などを基に主題を生み出し、画面全体と手の関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。	①美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく手の美しさや心情などを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。
②水彩絵の具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。	②造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	②美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 基 盤

(1) 教材観

拍手とは、相手への称賛や激励の意を込めて手を打ち鳴らす行為である。その相手は、目の前の壇上の演者や遠く離れた存在、時には自分自身へ向けることもあるかもしれない。

本題材では、身体の一部である手を見つめ感じとった形や色彩の特徴や美しさ、込められた意味合いやそれに伴う心情などを基に主題を生み出し、全体と部分などの関係を考え創造的な構成を工夫し、心

豊かに表現する構想を練る。そして、透明水彩絵の具の様々な表現方法を試しながらその効果を生かし、発想や構想したことを基に自分の表したいことを工夫して追求する。さらには、完成した生徒同士の作品を鑑賞することで、造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げることが期待される題材である。

(2) 生徒観

本学級は、学習に対して意欲的に取り組もうとする生徒が多い。美術科ではこれまでに、明暗を意識した陰影のつけ方やドライブラシやにじみなどの基本的な水彩絵の具の技法を用いて、自分なりの表現による制作に取り組んできた。また、色の調子や感情、配色の工夫などの学習について意欲的に取り組んできた。

しかし、絵画分野の制作の中で、生徒から「下描きはできても、着色が思うようにできない。」や、「完成したけれど、自分の考えが見る人に伝わらない。」などといった困り感を抱いている生徒も少なくなない。また、中学生ともなると、他者と比較したときの巧緻性や技能面の落差に描くことを恐れてしまう生徒もいる。しかしその一方で、生徒たちの授業での質問や振り返り記述には、作品を「もっとよくしたい」、「よくするためには、どのようにしたらよいのか」という問いをもち、追求しようとする姿勢が多く見られた。

(3) 指導観

拍手と聞いてイメージすることをそれぞれがワークシートにまとめ、学級で共有した。例えば、拍手をする人数や手を打つ力強さ、その音の大きさ、拍手をする人の設定やその心情、場面の設定などである。そして、これらに応じた画面構成と配色、水彩絵の具の技法（ドライブラシ、点描、にじみ、ぼかし）を作者の心情や意図が鑑賞者に伝わるように構想する。

表現の過程において、ペアやグループ鑑賞を適宜行い、互いを高め合える場面を設定する。生徒はつくったものを「さらに工夫していいものにしたい。」という願いをもって互いに作品を見せ合うことで、自分や友達は何をあらわしたいのかを見つめ、よりよい表現方法を明らかにすることができる。そのために、教師のはたらきかけとして、生徒同士がかかわり合う中で「この生徒のしたいことは何か」、「本当にそれでいいのか」といった問い直しや、「なぜそうなったのか」という作者の考えを掘り下げていく働きかけを行う。また、その問いに向き合い、どのようにしたいのか班員と一緒に確認していくことで、作品制作への意欲を高めていきたい。

5 展開と評価計画（全7時間）

次	時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	◇評価規準 ◆評価方法
第一次		◎参考作品の鑑賞を通して、形や色彩のなどの効果や全体のイメージでとらえることを理解したり、作者の心情や表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を広げたりする。 ◎参考作品の鑑賞で学習したことから、手に込められた思いや意味を基に主題を生み出し、創造的な構成を工夫して表現する構想を練る。	
	1	○作者の心情や意図に応じた多様な表現について考える。 ・作家の「手」をテーマとした作品を鑑賞し、作者の意図や表し方などについて意見を述べ合いながら、主題と表現の工夫との関係について考える。 ・形や色彩などが感情にもたらす効果をまとめる。	◇知① ◆発言内容、ワークシート ◇思② ◆発言内容、ワークシート ◇態② ◆行動観察、発言内容、ワークシート

	2	○主題を生み出し、構想を練る。 ・イメージマップを活用し、拍手についての発想を豊かに広げる。 ・生徒が生み出した主題を基に、画面全体と手の関係を考え、創造的な構成を工夫し構想を練る。 ・アイデアスケッチに色鉛筆で試し塗りをして、全体のイメージを確認する。	◇思① ◆発言内容、ワークシート、アイデアスケッチ ◇態① ◆行動観察、発言内容、ワークシート、アイデアスケッチ
第二 次	3	◎水彩絵の具の特徴をいかし、自分の表現意図に応じて工夫して表す。 ○発想や構想を基に、自分の意図に合う表現方法を工夫して表す。 ・これまでの学びをいかし、形や色彩などが感情にもたらし効果などを考えながら着彩する。	◇知② ◆行動観察、制作途中の作品
	4	・自分の意図に応じて、水彩絵の具の濃度や筆の使い方を工夫して、様々な表し方を試す。	◇思①② ◆行動観察、発言内容、ワークシート、制作途中の作品
	5 (本時) 6	・制作の途中に鑑賞を行い、作品の解説をしたり他者の作品を見たりすることにより、表したいものをより明確にしていくなどをしながら作品を制作する。 ・画面全体を確認し、自分の意図や表したいものが伝わるような画面になっているか確認する。	◇態①② ◆行動観察、発言内容、ワークシート、制作途中の作品
第三 次	7	◎相互鑑賞を通して、お互いの作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。	
		○生徒作品や美術作品などから、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。 ・互いの完成した作品を鑑賞し、作品から感じたことや考えたことを説明し合う。	◇思② ◆発言内容、ワークシート ◇態② ◆行動観察、発言内容、ワークシート

6 本時の学習（5／7時間）

（1）本時の目標

制作途中の作品の相互鑑賞を通して、お互いの作品の造形的なよさや美しさを伝え合ったり、アドバイスし合ったりして作品をよりよくするための工夫を考えることができる。

（思考力、判断力、表現力等）

（2）展 開

学習場面と生徒の取り組み	教師の支援と評価
・机を班隊形（4もしくは3人班）とする。 ・本時の学習の流れを確認する 1. 前時のふりかえりをする。 ・制作途中の作品を互いに見せ合い、頑張りを認め合う。	・全体への指示を板書し、生徒の授業へ向かう姿勢をつくる。 ・生徒記述の振り返りシートのコピーを配布し、内容を紹介する。 ・互いの制作状況を確認し、意欲付けとなるように言葉がけをする。

2. 本時の学習目標を確認する。 制作途中の作品を鑑賞し合い、表したいものが相手に伝わるような工夫を考えよう。	本時の学習目標を示し、見通しをもたせる。
3. 制作途中の作品を班で鑑賞し合い、感想や助言を送り合う。 - 一人ずつ作品を班員に見せ、解説をする。班員は付箋にメモを取り、発表後に内容を伝える。 ＜予想される生徒の反応＞ - 手が四方から配置されているので、たくさんの拍手の音が聞こえてきそう。 - 暖色だから、温かみを感じられる。 - 背景色が濁っていて、どのような拍手なのか想像しにくい。 4. 受け取った付箋を参考に、作品をよりよくするための考えをまとめる。 5. 振り返りをする。 - 振り返りシートに、本時の学習内容についての振り返りと次時の目標を記入する。 - 次時の学習内容を確認する。	- 鑑賞をする上でのポイント（形や色彩、心情、画面構成、水彩画の技法など）を学級全体で確認し、具体的に意見が述べられるようにする。 - 付箋を受け取り、制作の際の客観的な意見として、今後の表現の手がかりとする。 - 互いの努力や工夫を尊重することができるように、促す。 作品の課題を明らかにし、具体的な制作の手立てをまとめ、班や学級で共有し、相互の参考にさせる。 評価（思・判・表） 制作途中の自分の作品の表現意図や工夫などを他者に伝えたり、他者の作品に対してアドバイスをしたりすることを通して、自分の作品をよりよくするための考えをまとめている。 （行動観察、発言内容、ワークシート） - 制作での気づきや工夫、他者からの助言等を視点として振り返るようにする。 - 本時の活動から学んだことや気付いたこと、鑑賞からの次時への課題をまとめるように伝える。

